

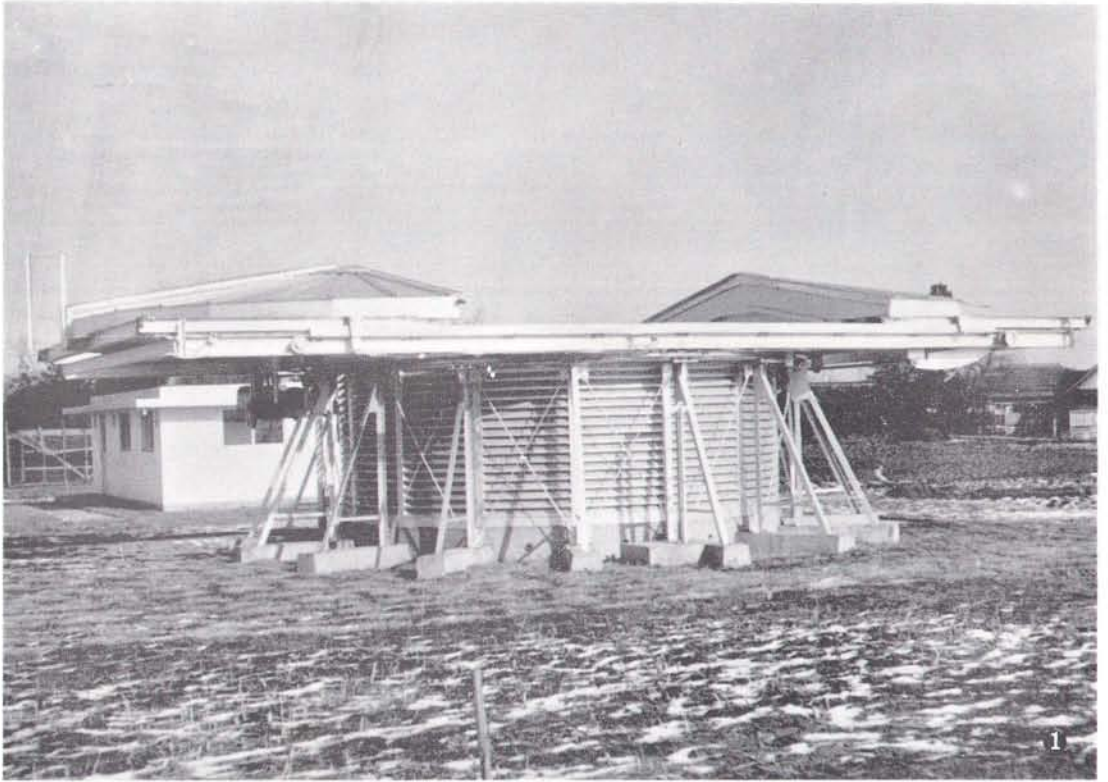
◇南の星を写す◇

1 および 2 の写真は鹿児島市の会員山口志摩雄氏が、自宅屋上から写された南天の星座で、カメラはアサヒペンタックス S2 にコムラー 135 mm レンズを付け、F 2.3 開放でネオパン SSS (増感) で写したもの。

1 は本年 1 月 2 日朝 5 時 57 分より 3 分 - 20 秒 - 3 分の露出で写したもので、右下の屋上約 1 cm のところに南十字の γ (1.6 等)、左の中段のあたりにケンタウルス ϵ (2.6 等) が写っている。

2 は 1964 年 9 月 5 日 3 時 0 分より 2 分 - 20 秒 - 2 分の露出で写したもので、中央下部の屋上約 4 mm のところにエリダヌス座のアケルナー (0.6 等)、上はじの右よりの明るい星はエリダヌス δ である。





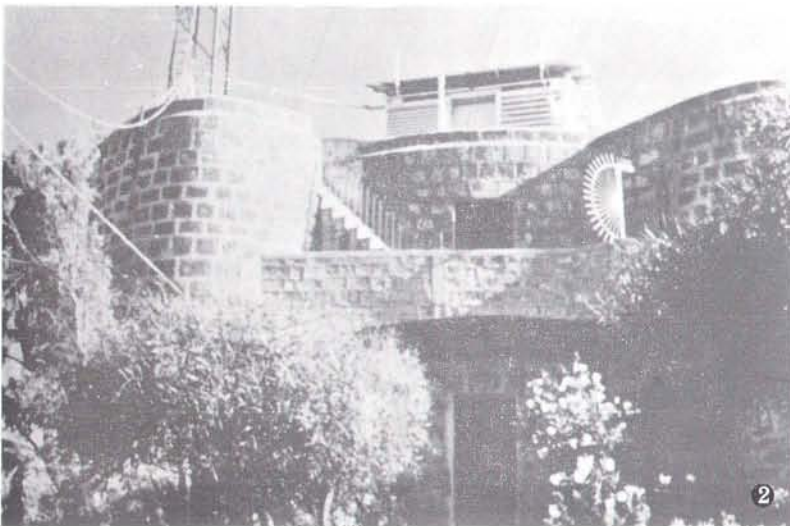
◇ 世界の緯度観測所めぐり ◇

1. 水沢緯度観測所に新設されたアストロラープ観測室。表紙写真の部屋の外観。屋根が円形のレールに乗っている所に注意すること。

2. イタリアのカルロフォルテ緯度観測所。
この写真は昨年（1964年）8月14日～19日にか

けて水沢緯度観測所の須川力氏がヨーロッパ在外出張の際訪れたイタリアのカルロフォルテ緯度観測所の建物の正面を示している。カルロフォルテはイタリアのサルディニア島の南部にごく近いサン・ピエトロ島という小島にあるただ一つの市で、緯度観測

所は海岸に近い場所にあつて塩田に沿っている。観測所自身もフォルテすなわち砦（とりで）の外観を呈し、島民から日夜天文観測所として誇らしく親愛の眼をもって仰ぎ見られている。





3. イタリアのポロニア大学にて

この写真は昨年（1964年）9月21日水沢緯度観測所のIPMS中央局長弓滋氏がハンブルグの第12回IAUに出席したのちイタリアのポロニア大学にイタリア測地学委員長ドーレ教授（写真中央）を訪れて国際緯度観測報告書第10巻を故カルネラ前ILS中央局長のあとをひきついで担当しているナボリのカポディモンテ天文台長ニコリー氏（写真右端）らとともに記念撮影したものである。

4. イタリアのトリノ天文台にて

この写真も昨年（1964年）9月24日に弓滋氏がポロニア訪問のあとつづいてトリノ市のピノトリネーゼ天文台に前中央局長（1949～1961年）チ

ェキニー博士を訪ねた際に本館わきの庭園を前にして夫妻を撮ったものである。チェキニー氏は今年78才に達するが、なお大変元気でILM観測のまどめに日夜活動している。



5. ハンブルグ第12回IAU総会閉会直後

この写真は右から順に弓、須川、エンスリン（ハンブルグ水路局）ギノー（バリー天文台）ギノー夫人、エゲルト、アルバー（ブサンソン天文台長）、スミス（グリニヂ天文台）、1人おいてコバレスキー、マルコヴッツの諸氏で、IAU総会直後一息ついたところである。

